

第30回埼玉県学童保育実践交流会

申し込み・問い合わせ 郵便振替で入金し、その領収書のコピーと「申し込み用紙」を一緒にFAXまたは郵送して下さい(2月10日必着)。第3希望までお書き下さい。第1希望に入れなかった場合のみ、事前に連絡致します。当日参加もできますが、レポート集を送付する関係でなるべく事前にお申し込み下さい。当日参加の場合は、希望される分科会に入らないことがあります。

埼玉県学童保育連絡協議会
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町4-1005
048(644)1571 FAX 048(644)1572 e-mail: gakudoust@yahoo.co.jp
郵便振替 00160-7-93727 埼玉県学童保育連絡協議会

保育室 できるだけ地域で解決してください。どうしても必要とされる場合は事前に申し込んでください(対象は4歳以上。保険料・おやつ代として当日300円を集合)。当日の保育申込には応じておりませんのでご了承ください。

宿泊 申込は必ず事前に行ってください。洗面具、ねまき、タオルなどはご持参下さい。21:00までにご入館下さい。それ以降となる場合は、事前に申し出て下さい。

昼食 お弁当を希望される場合は事前に申し込んでください(800円)。なおレストランのご利用はお弁当を申し込んだ方に限られます(それ以外の方はレストランを利用できません)。

交通

実践記録を綴る意味は、指導員自身が、子どもやその保護者との関わりや、その中で考えたこと・感じたこと、葛藤や逡巡も含めた事実を書き記すことを通じて、自分の実践をふりかえることです。また、実践記録を指導員同士で検討することの意味は、報告者の実践の事実に沿って、子どもや親との関わりのある方、実践の内容や方法などについて討議し、そのことを通じて、実践の課題を明らかにしたり探ったりすることです。報告者自身はもちろん、報告者の実践を通して、参加者各々が、自らの実践、子どもと親との関わりのある方を振り返ることであります。

私たちは実践交流会等でのとりくみを重ねる中で、実践を綴り討議することは指導員が子どもを見る目や子どもにはたらきかける視点や方法を深める上で有益な作業であると痛感してきました。こうしたとりくみを、是非、地域で広げていただきたいと思います。

実践交流会は指導員の実践レポートをもとに、みんなで話し合うことを通じて子どもを見る目を深め実践の力を高める場として開催されてきました。同時に、生活する場にふさわしい環境・条件整備、自治体施策をどうつくっていくか、また父母会をどう活性化させるかなどについても話し合ってきました。すべての学童保育からご参加ください。

日時 2009年3月1日(日) 9:00開場 9:30~16:30
場所 嵐山・国立女性教育会館 (地図参照)
参加費 2,600円 その他 弁当代=800円 宿泊費=2,200円
内容 7分科会、15分散会(裏面参照)に分かれます

----- 申 し 込 み 用 紙 -----

市町村名	氏 名	学 童 保 育 所 名
学童以外の なら		
レポート 送付先 住所	(〒) 宛先(上記の学童保育 其他)	
印をつけてください	希望分科会	
父母 指導員 他()	第1() 第2() 第3()	

参加費2,600円 お弁当800円 宿泊2,200円 計()円を添えて申し込みます。希望分科会を「2-ア」のように明記してください。第2希望まで必ずお書き下さい。

プレ学習会のお知らせ レポートを使った模擬討論

日時 1月21日(水) 9:40~11:40
場所 さいたま市産業文化センター
(与野本町駅下車徒歩7分)
参加費 県連協・指連協未加盟の方のみ300円

主催 / 埼玉県学童保育連絡協議会・同指導員連絡協議会 後援 / 埼玉県・埼玉新聞社

分科会案内

1，子どもたちの生活を伝え保護者とともに育てる

学童保育では父母と指導員とが子どもをまんに、「こんな子に育ってほしい」と語り合いながら生活をつくることを大切にしてきました。父母からは家庭での様子を、指導員からは学童保育での子どもの様子を伝え合い、子どもをよりよく理解しようと努力しています。今日、子どもを育てることがだんだん難しくなっています。こうした“共同の子育て”をどう進めるかを交流しましょう。

1 - ア 【世話人】松崎波留美（寄居町）、鈴木孝徳（上尾市）
【レポーター】清水夕紀子（坂戸市）「伝え合うことの大切さ」/ 矢川礼子（所沢市）「A子のこと」

2 - イ 【世話人】小沢明子（さいたま市）、藤井奈弥（所沢市）
【レポーター】荻原裕子（草加市）「T君と向きあうためには」/ 戸沢敦子（寄居町）「保護者へ伝えることにより、見えてきたこと」

2，一人ひとりを大切に作る生活づくり

学童保育はまずは子どもたちが学校の課業から解放され「ゆったりできる」場でありたいと思います。指導員はそうした子どもたち一人ひとりをていねいに捉えながら、よりよい成長を願って生活づくりを工夫しています。毎日の生活づくりでどんなことを大切に、子どもたちの育ちを励ましたらよいかを交流しましょう。

「一人ひとりを…」のテーマで5分散会に分かれて討議します。

2 - ア 高学年を含めた生活づくり

【世話人】井上育（ふじみ野市）、新井豊子（本庄市）
【レポーター】三浦美穂子（さいたま市）「思いを伝えるということ」/ 安井郁美（坂戸市）「高学年の居場所と関わり」

2 - イ 【世話人】藤岡久代（さいたま市）、村本直美（北本市）
【レポーター】川田富士子（深谷市）「Kにとって学童は辛いだけ？」/ 西田直子（東松山市）「学童での高学年」

2 - ウ 【世話人】原佐登江（越谷市）、浜田暁子（深谷市）
【レポーター】望月葉子（さいたま市）「安心できる関係を作るまで」/ 今津美恵（富士見市）「K君との関わり」

2 - エ 【世話人】前田明子（富士見市）、楠瀬真理子（春日部市）
【レポーター】柳沢大助（さいたま市）「Hの思いをどう受け止めていたか」/ 伊藤美知子（飯能市）「伝え続けることの大切さ～3人の女の子との関わりを通して」

2 - オ 【世話人】鈴木慶子（富士見市）、坂田耕一（さいたま市）
【レポーター】植野俊弘（所沢市）「大規模学童での保育」/ 柏木なほ子（飯能市）「Y君を支えるには」

3，障害児を含めた生活づくり

私たちは、条件づくりにも取り組みながら、できる限り障害児を受け入れる努力を続けてきました。また、友だちとの生活と指導員の適切なはたらきかけの中で障害児が育つことを確かめてきました。障害と障害児をどう理解するか、どのようにはたらきかけるか、健常児との関わりで何を留意しなくてはならないのか等を交流します。

3 - ア【助言者】細野浩一氏（知的障害者更生施設ゆいの里施設長）
【世話人】坂内亮司（さいたま市）、橋本晶子（坂戸市）
【レポーター】桜井和枝（上里町）「Nちゃんとともに」 / 廣田高也（所沢市）「K君の成長」

3 - イ 【助言者】清水均氏（NPO法人コンパスの会）
【世話人】細野恵（所沢市）、山崎裕司（東松山市）
【レポーター】山川浩章（さいたま市）「仲間とともに」/ Hさん（N市）「S君とつきあって」

4，クラブだよりをもとにした実践討議

【世話人】竹内れい子（草加市）、合田瑞穂（さいたま市）
【レポーター】国分敏子（上尾市）「はなみずき」/ 高梨勝子（深谷市）「ジャンケンポン」/ 高良のぞみ（日高市）「命輝け」
学童保育での子どもたちの様子を父母に伝え、子どもを一緒に考える上でクラブだよりは大きな役割を果たしています。父母は「子どもたちの生き生きとした生活を伝えられると安心する」と言います。クラブだよりを持ち寄り、それをもとに実践討議を行います。

5，障害児学童保育の生活づくりを豊かに

障害児学童保育は県内で31カ所にまで増えてきました。実践の積み重ねの中で、一人ひとりの障害の種類や程度、発達年齢による興味・関心の違いに応えた実践を模索する段階となっています。障害児学童保育の生活づくりには、小学部から高等部までの子どもたちが一緒に生活することからくる楽しさと難しさがあります。生活づくりで何を大事にしていくか、どのようにつくっていくかを深めます。

5 - ア 【助言者】竹脇真悟氏（埼玉県立越谷養護学校教諭）
【世話人】益本裕美（モンキーポッド）、鈴木恵子（風の子）
【レポーター】足立優太（風の子）、加藤明日美（ふれんず）

5 - イ【助言者】村岡真治氏（小平市ゆうやけ子供クラブ施設長）
【世話人】石毛俊夫（たんぼぼ）、阿利澄江（ぼしゅっと）
【レポーター】小出奈津子（たんぼぼ）、北川律子（なかよし）

6，学童保育制度・施策を改善するために自治体へのとりくみを進める
国は現在、「次世代育成支援のための新たな制度体系の設計」と称して学童保育について質量共に拡充を図る観点から制度上の位置づけや財源確保も含めた検討を開始しています。一方、県下では「指定管理者制度」の導入が進み、また、2010年度をメドに大規模学童保育の分離分割が緊急の課題ともなっています。自治体施策の改善をどう進めていくかを考えましょう。

6 - ア 大規模問題の解決は分割・新設でこそ
【世話人】薄井俊二（県連協会長）、県連協大規模問題チーム
【レポーター】大規模チームより「討議資料」説明 / 所沢市学童保育の会 + 美原学童クラブ / 新座市学童保育の会

6 - イ 「指定管理者制度は学童保育には相容れない」を世論に
【助言者】角田英昭氏（神奈川自治体問題研究所事務局長）
【世話人】山本和順（県連協事務局長）、県連協指定管理者制度チーム
【レポーター】指定管理者制度チームより報告 / 新規導入予定 = ふじみ野市 依頼中 / 再指定 = 富士見市学童保育ほごしゃ会連合会 / 再指定 = クラブ単位での指定 鴻巣市大芦学童保育室

7，一人ひとりを大切に作る保護者会活動、父母同士の関わりづくり、そして連絡協議会づくり

【世話人】木村徹（県連協副会長）、山本勝子（幸手市）
【レポーター】小原泰子（ときがわしいの子会保護者）/ 上尾市大石学童保育所 及川剛（保護者）・高野ゆう子・松本絵梨香（同指導員）/ 草加市学童保育の会

「保護者会がわずらわしい」「保護者がなかなか集まらない」「運営のことで時間を割かれて子どもの話ができない」「保護者たちの労働形態の変化で会議の設定が難しい」という声が聞かれます。一方、「子育ての悩みや喜びが共有できてホッとする」という声も多数聞かれます。「会議に出席できない家庭の事情も考慮してとりくんでいる」「日常的に交流の場を設けている」など努力・工夫も見られます。保護者会をみんなのもの、魅力あるものにするにはどうしたらよいかを交流します。地域連絡協議会を活性化するには、ということについても交流します。